第16回ファカルティ・ディベロップメント報告書

2022年11月京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻教務委員会

1. 開催概要

第 16 回 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻ファカルティ・ディベロップメントは、「Diversity と Inclusion」をテーマとして実施した。職位、分野、性別、Diversity と Inclusion に関して事前アンケートを実施し、講演の参考情報として共有するとともに、グループ・ディスカッションのためのグループ分けの情報とした。

講演に先立ちの今中雄一専攻長によりご挨拶があり、引き続き西浦博教務委員長より今年度のファカルティ・ディベロップメントの狙いなどについて説明があった。

続けて、京都大学 防災研究所 社会防災研究部門の Dr. LAHOURNAT Florence から 「Understanding diversity and inclusion: Towards fostering an inclusive education and research environment」について講演といただき、質疑応答が行われた。 休憩を挟んだ後、講師より提示された課題に基づき Diversity と Inclusion について、4 名程度の 10 グループ に分かれ議論がなされた。その後、各グループで議論された課題を全体で共有し、講師からのコメントをいただいた。

その後、今中雄一専攻長、西浦博教務委員長の挨拶にて閉会した。

後日、事後アンケートを行い、専攻内での Diversity 及び Inclusion についての基礎資料 として集計した。

2. 出席者(敬称略) 43 名

医療統計学: 佐藤 俊哉

医療疫学: 山本洋介、小川雄右、山田淑恵

薬剤疫学: 川上浩司、竹内正人、吉田都美、高山厚

臨床統計学: 田中 司朗、大森 崇

医療経済学: 今中雄一、佐々木典子

医療倫理学・遺伝医療学: 小杉 眞司、中島 健

健康情報学: 中山健夫、高橋由光、岡田浩、西川佳孝、當山まゆみ

環境衛生学: 西浦 博、林 克磨、小林 鉄郎、岡田雄大、茅野 大志

健康増進・行動学: 古川 壽亮、田近 亜蘭、坂田 昌嗣、Yan Luo、菊池 志乃

社会疫学: 近藤 尚己、長谷田 真帆、佐藤 豪竜

予防医療学: 島本 大也、西岡 典宏、立山 由紀子

知的財産経営学: 早乙女 周子

医学コミュニケーション学: 岩隈 美穂

ゲノム医療学:和田 敬仁、川崎 秀徳、鳥嶋 雅子

デジタルヘルス学: 水野 佳世子、深澤 俊貴

国際化推進室: 河野 文子

3. 資料

- 1. 講演スライド
 - Dr. LAHOURNAT Florence(京都大学 防災研究所 社会防災研究部門)「Understanding diversity and inclusion: Towards fostering an inclusive education and research environment」
- 2. グループ・ディスカッションで用いた作業ボード
- 3. 事前・事後アンケート集計報告

【開催プログラム】

第 16 回 ファカルティ・ディベロップメント・プログラム

場所:Zoom 開催

日時: 2022 年 11 月 11 日 (金) 司会: 教務副委員長 西浦 博 先生

9:00-9:05

1. はじめに 専攻長 今中 雄一 先生 Opening remarks (Prof. Imanaka)

9:05-9:15

2. **本年度**のファカルティ・デベロップメントについて 教務委員長 西浦 博 先生 About this year's faculty development (Prof. Nishiura)

9:15-10:30

3. 講演:「包容力のある教育・研究環境づくり」

講師: ラウルナ フローランス先生(京都大学 防災研究所 社会防災研究部門) Lecture: Understanding diversity and inclusion: Towards fostering an inclusive education and research environment (Dr. LAHOURNAT Florence, Disaster Prevention Research Institute Kyoto University)

10:30-10:40

1. 質疑応答 Q & A

10:40-10:50

2. 休憩 Break time

10:50-11:20

3. グループ・ディスカッション Group discussion

11:20-11:50

4. 各グループ発表 Sharing

11:50-12:00

5. 終わりに Closing (Prof. Nishiura)

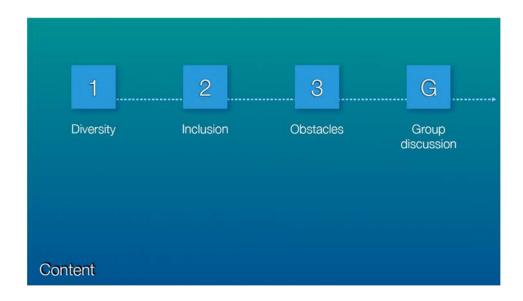
資料1 講演スライド

Dr. LAHOURNAT Florence (京都大学 防災研究所 社会防災研究部門)

「Understanding diversity and inclusion: Towards fostering an inclusive education and research environment」

スライド1

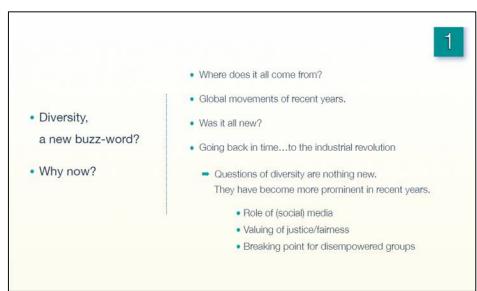


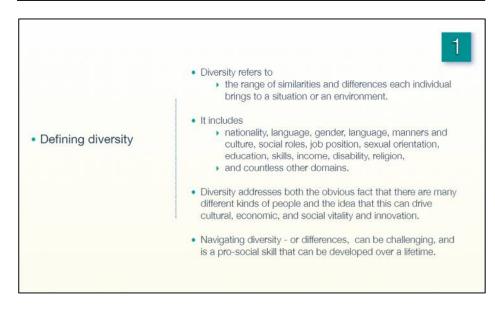


スライド3



スライド4





スライド 6

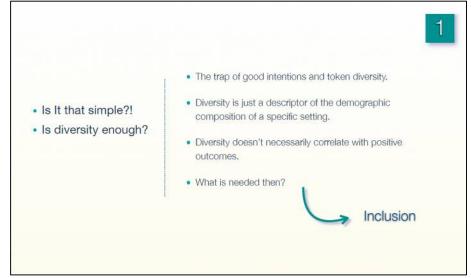


スライド7

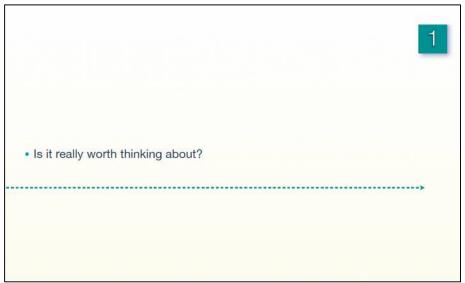




スライド 9



スライド 10

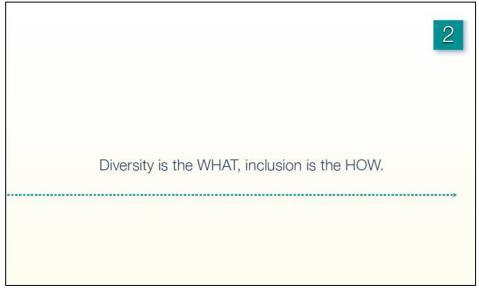




スライド 12

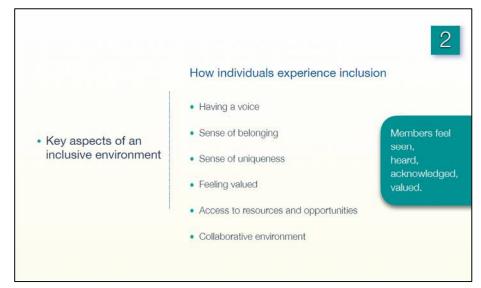


スライド 13



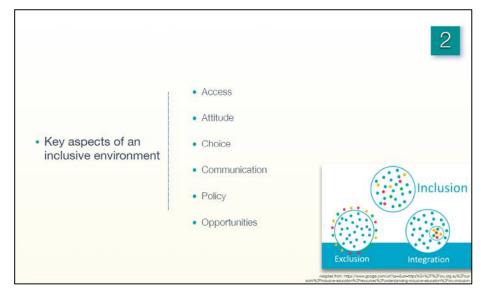


スライド 15

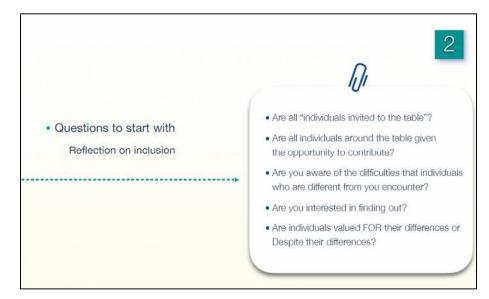


スライド 16





スライド 18

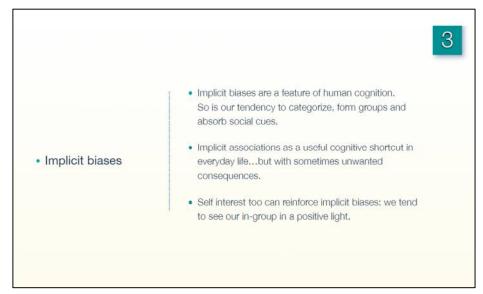


スライド 19

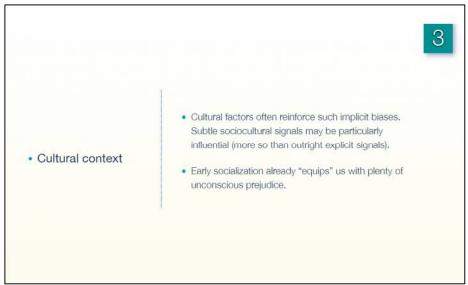


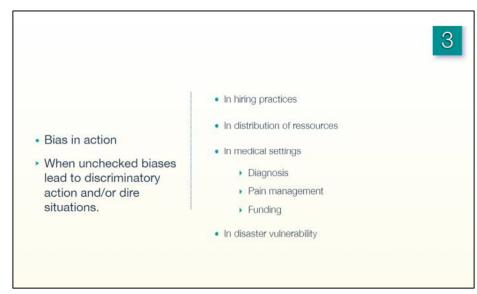


スライド 21

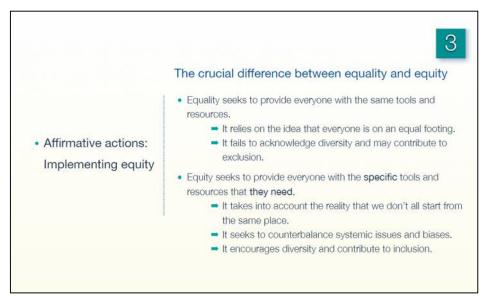


スライド 22



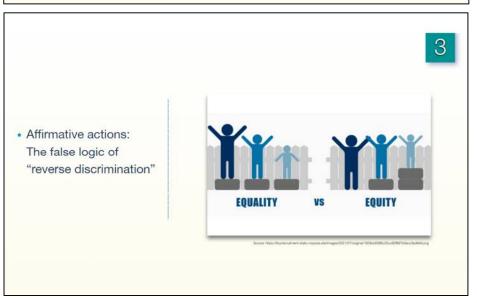


スライド 24

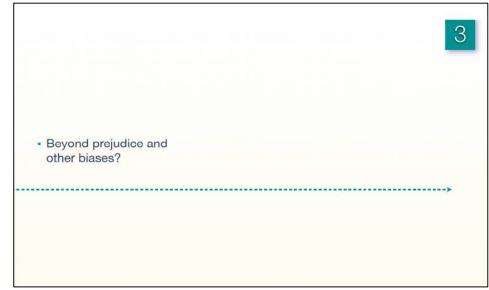


スライド 25

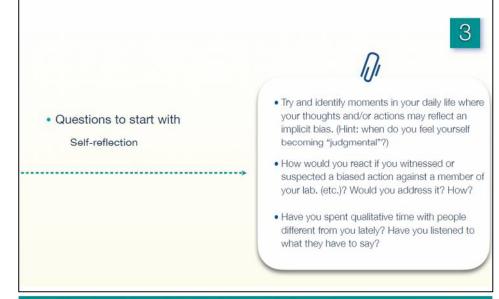








スライド 28



スライド 29



スライド 30



2. グループ・ディスカッションで用いた作業ボード

ボード1

Group Discussion

Exchange time

Discuss how you perceive the situation in your lab (or SPH at large)? Exchange about your own questions and concerns about the situation.

List up things that may come in the way of inclusion

Think of different ways you could make things better/more inclusive.

Create a "diversity statement" that describes the kind of environment you commit to strive for (in your class/lab/SPH).

ボード2

Group1

さまざまな専門分野の人がSPHの集まっているのはメリット 多様性よりも個人の利益が優先される場面もある 大学全体としては多様性優先 女性だからという逆差別もあるか diversityの目的が重要 留学生がある程度集まるとやりやすいが、少人数だと難しい 社会人学生

ボード3

Group2Exchange time

Discuss how you perceive the situation in your lab (or SPH at large)? Exchange about your own questions and concerns about the situation.

List up things that may come in the way of inclusion

Think of different ways you could make things better/more inclusive.

Create a "diversity statement" that describes the kind of environment you commit to strive for (in your class/lab/SPH).

Mission 1

- ・性別:男女のどちらかしかないような前提で考えるべきではない
- → アンケートなどでは男女の2択ではなく「答えたくないなどの選択肢」
- ・自分から声を発することができない人の意見をどのように取り入れるか、その 風土

Mission 2

Statementは内部向けなのか、外部向けなのか

ボード4

Group3

- ・大学側の留学生の英語サポート (教室員のサポートが必須)

Exchange time

- ・多国籍なLabもある
- · 言語がKey
- ・コロナになって、、研究以外でのinteractionが少なくなった ・日本人の英語。表現ややり取りが薄くなってしまう。理解も。
- ・双方がともに学べる環境とは...?
- ・Inclusiveを目指すと、どこか別の面がnegativeに働くことも・オンラインでの難しさ(親密さが以前に比べて。。)

Mission 1

Mission 2

Statement

- One teamを目指す。
- ・言語を習得しながらphysical な面でも。

ボード5

Group4

Exchange time

留学生

Lecture 宗教 1 (多言語でのスライド・講義)

食事 育児

Mission 1:

List up things that may come in the way of inclusion

Think of different ways you could make things better/more inclusive.

Mission 2:

Variety of Themes

ボード 6



Exchange time

Discuss how you perceive the situation in your lab (or SPH at large)?

Exchange about your own questions and concerns about the situation.

List up things that may come in the way of inclusion

Think of different ways you could make things better/more inclusive.

Mission 2:

Create a "diversity statement" that describes the kind of environment you commit to strive for (in your class/lab/SPH).

- 障害のある方
- 留学生
- 隠れたカリキュラム
- ·最大公約数

ボード7

Group6

Group member: Health informatics/健康增進行動学/環境衛生学

[The situation in your lab]

[List possible barriers to inclusion]

· Nationality/Gender/Sexuality etc

[Diversity Declaration]

About nationality/International Student

- Language ⇒ Use English in Lab Meeting/Classes
 Personal distance ⇒ "Professors actively talk to international students"
- Events ⇒ "Climbing"

ボード8

Group7

Exchange time

Discuss how you perceive the situation in your lab (or SPH at large)? Exchange about your own questions and concerns about the situation. いろいろな側面がある gender age background profession nationality culture theme study design perception

majority も minorityにもなりえる

Mission 1:

List up things that may come in the way of inclusion Think of different ways you could make things better/more inclusive.

留学生が理解しているかどうか、フィードバックの機会を設ける downside of diversity: resource, equity 積極的に議論すべき SPHはpassiveにdiverseになったが、 言語化し考え続けることが重要

Create a "diversity statement" that describes the kind of environment you commit to strive for (in your class/lab/SPH).

Keep asking what diversity is.

ボード9

Group8

Exchange time
Discuss how you perceive the situation in your lab (or SPH at large)?
Exchange about your own questions and concerns about the situation
Mission 1:
List up things that may come in the way of inclusion
Think of different ways you could make things better/more inclusive.

Mission 2: Create a "diversity statement" that describes the kind of environment you commit to strive for (in your class/lab/SPH).

· Department of Preventive Services:

Diversity: two foregin country students

Inclusion: Menter and Teaching assistant, English slide

· 健康增進行動学

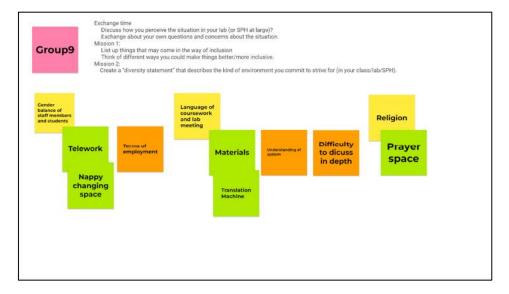
Inclusion: 日常会話も含めて英語

- ・京都大学病院は家のことをまったくやらない父親の集まり、という印象
- ・働き方が一通りしかない。
 - · Statementは医療界全体を対象にしたい。
 - ・今後、若者がついていくことができず空洞化してしまうのでは?

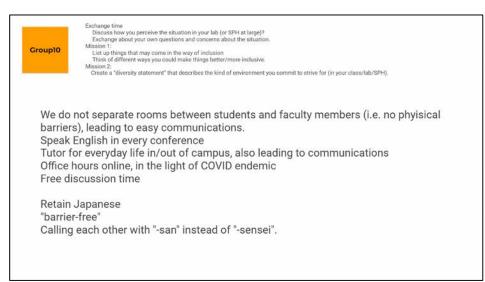
教務係のサポートも存在するがInclusionを実現するマンパワーが不足している

→国際化の実現にはスタッフも学生も全部英語を公用語にした部署を作って推進していく 必要がある?

ボード 10



ボード 11



3. 事前・事後アンケート集計報告

■参加者内訳:

性別:男性:30名(69.8%)、女性13名(30.2%)

職位: 教授13名(30.2%)、准教授8名(18.6%)、講師2名(4.7%)、助教20名(46.5%)

■事前アンケート

Q. "Diversity" や "Inclusion" について、思っていること、気にしていること、知りたいことなどをご記載ください. (全く知らないというようなことでも構いません.)

- · どういう問題が生じているのかがわかりません.
- ・ 配慮のポイント
- ・ Diversity に関してはすぐに意味は取れる(人種や国籍、性別などいろいろな背景がある人たちが一緒に生活(仕事など)をする中で大切なこと)が、Inclusion はあまり効き慣れなれなくイメージが湧きづらいと思った。
- ・最近話題になっていることは知っているものの、その内容については全く知りません。
- ・ Diversity の重要性は感じますが、具体的にそれを高める有効な手段について残念ながら知りません.
- 全く知りません。
- · Inclusion は、よくは知りません
- "Diversity" や "Inclusion"を推進するための方法について、海外の事例なども含め知りたく存じます。
- ・ "diversity" や "Inclusion"は極めて重要。どのように皆が重視できるようになるかは重要課題。
- 分野や出自などにとらわれず、幅広くというイメージ
- · Inclusion ははじめて聞きます。
- ・ 多様性というといいことばかりのようなイメージがありますが、背景が大きく違う人とのコミュニケーションは「当たり前」や「普通」が通じなくなるため、同質性の高い日本人が得意とするあうんのコミュニケーションが成り立たなくなり、いいことばかりではないと思っています(少なくとも短期的には)。また少数派が多数派の脅威にならない(でもやっている感が出る)「3割の壁」をどうやって超えていけるか、に関心があります。
- ・ 近年 LGBT や女性の雇用などについて様々なニュースで取り上げられるようになって きた一方で、それがわざわざニュースになるのはまだ過渡期なのかという印象を受け ますが実際にはどうなのでしょうか?
- ・ いま多くの国立大学で進められている「女性教員の限定公募」というのは、文部科学 省が Sanction を予定しており、Diversity and inclusion の発想からすると逆の帰結を招 きかねない事態も発生し得る状況にあります。今日のセミナーを基に、この現状につ

いて、私たちはどのような考えを持っておくと良いでしょうか。

- ・ 色々な考え方を尊重しよう、とは考えています。一方では、「多様性を受け入れる」 ようにするため、気になっても「無関心」を装うこともあり、どのような行動に出た らよいのか迷うこともあります。(例えば、盲目の人が歩いていた時は何か気にかけ た方がいいのか、その人のペースがあるのであまり話しかけない方がいいのか。外見 が個性的なファッションをしている人がいたとして、話題にしていいのか、むやみに 詮索しない方がいいのか?など。)
- ・どんなニーズがあるのか積極的に学びたいと思います。
- ・ SPH は自然と Diversity が大事にされる環境にあると思いますが、改めて議論することで、考えを深めていければと思っています。
- ・基本的なことから学びたいです。
- 少し知っています。
- ・ それらを尊重することが、実際の教育・医療でどこまで実践するか。自分たちはできているのか。セルフチェックの方法は? 残念ながら京大病院は夜のカンファが多く その点でも実践できていないと思います。
- ・ 多様性について、日々の教育活動の中で配慮したいという気持ちはあっても、業務が 多忙な為、あまり考えられていないというのが本音です。
- ・ どこまでの Diversity を認めていくのか、例えば Diversity は認めないという Diversity は認めるべきか、といった点が難しいな、と感じている。
- ・ 雇用のルールが厳しく多様な人材を雇用したくてもできなかったことが何度かあった のが残念。
- ・ こちらに配慮するとあちらの不利益になる、というように、全方位に配慮することは 難しいと日々感じています。ある程度のところで納得できる落としどころを組織の構 成員同士で対話を通じて探っていくことになるのかな、と今は考えています
- ・ ビジネス関係で「心理的安全性」などとの関係で少し耳にしたことがある程度で、大 学院教育や研究室での関係性についてはほとんど知りません。研修を大変楽しみにし ています。
- Diversity や Inclusion に配慮するにあたり、アンコンシャス・バイアス等についてご 教示いただければと思っております。

■事後アンケート (回答 13 名)

- 1) ディスカッションを踏まえ、大学環境において、Diversity と Inclusion をよりよく反映するためのご意見等がありましたら、ご記入ください。
- ・ 最近 Diversity と Inclusion は話題になって色々と議論されているのはすごく良いことだと思いますが、Diversity と Inclusion のメリットばかりを言及する傾向があると感じでおります。Diversity と Inclusion の実現の難しさや downside、例えば、Diversity と Inclusion の実現と伴なって Majority に「損」をもたらしうる面や、コストやマンパワーの再分配なども、ちゃんと認識した上で議論すべきなのではないかと思います。そういった困難を向き合わないと、実現は不可能で、結局「綺麗事」「political correctness」だけになってしまうのかもしれません。
- ・ "「家事をしない男性の集まり」という意見がありましたが、自分も他人事ではないモーレツ社員です。性、言語、出身地、職業の多様な方々が力を発揮するには、それを何とかしないことには、今まで通り一部の人の活躍の場になってしまう気がしました。
- ・ 言語の壁の他、身体的な障害などに対する配慮なども必要であるが、結局のところ資源などにも限りがある中でどの程度が提供できるのかという妥協点を探していく必要があると思われた。
- ・ 男女、言語、多様なバックグラウンド(文化、専門、職業)に配慮する環境を作る際に、一部の人への負担が大きくなる可能性がある。大学としてインクルーシブを進めるための支援制度を提供していただけると、取り組みが円滑に進むかと思います。
- ・環境を良い方向に更新し続ける姿勢が大切だと思いました。
- ・ ダイバーシティーやインクルージョンは、教員一人ひとりによる意識改革と小さな取り組みの蓄積が重要であると感じると同時に、それだけでは十分ではなく、京都大学として、組織全体で取り組んでいかなければならない事柄だと思いました。
- ・ 日本語しかないホームページ(医の倫理委員会等)の英語化
- ・ このような大変本質的なテーマを取り上げることの重要性についてあらためて気づき、 考える契機となりました。
- ・ 国際化にあたり、言語的な障壁をどのように乗り越えていくのかが焦点になると思い ました。
- 定期的なフィードバックの機会があるとよいと思います。
- ・ 大学側の留学生へのサポート
- · 話しやすい環境づくり
- ・ 言語、特に英語に関して日本人、留学生ともに取り残さないようなシステムづくり"
- · 何を目標にするのかが難しい、人によって異なっていることは認識できた。

2)全体として研修へのご意見・ご感想を教えてください。

- ・ 良いお話をお聞かせいただき、みなさまと議論する機会を作っていただき、ありがと うございました。
- 講義の内容は仕事場を振り返るきっかけになって非常によかったと思います。
- ・ グループディスカッションでは「自分のところは多様だ」「SPH は多様だ」という意見が多かったのですが、多分それは自称であって、世界中のいろんなラボを見ると、我々は画一的な方なんじゃないかという気がしました。何と比較して、というのもありますが、自身の特権には気が付きにくいものなので、もう少し踏み込んで「気が付いていない特権」みたいなことを扱ってもよかった気がします。"
- 広いテーマであり、なかなか考えさせられました。
- ・ Diversity/Inclusion についてどう考えるべきか考える貴重な機会になりました。小人 数でのグループディスカッションも意見交換がしやすいでサイズでよかったと思いま す。大変素晴らしい機会をありがとうございました。
- ・ ご講義を経て、4人でのグループディスカッションさせていただいたので、とても実りある会議になりました。ご企画、運営、本当にありがとうございました。
- ・ ダイバーシティーやインクルージョンについて、わかりやすいご講義を頂き、また、 グループディスカッションから、他の SPH 教員がどの様に考えているかを知ることが できて、良かったです。
- ・ Diversity と Inclusion の違いなど、大変勉強になりました。普段マジョリティの側にいると、多様性に想像力を働かせる機会が少なくなりがちなので、このような機会は重要だと思いました。
- ・ 普段、考えたことのない話題で緊張しましたが、他の先生のご意見を伺うことが出来 たいい機会でありました。
- ・ 他の研究室の先生方とディスカッションできたことは大きな刺激と学びになりました。 ファカルティが直接話せる機会が減ってしまっている中で、グループワークはとても いいと感じました。
- 普段考えないことを考えることができて興味深かったです。
- グループワークもありよかったと思います。
- ・ よかったです。

3) 次年度 FD で取り扱いたいテーマがございましたらご記入ください。

- ・ 同じテーマで数年で深めていくのもよいのではないでしょうか。1 回の講習で何かが よりよくなるということはない気がします。
- ・ 研究の国際競争力の強化と京大の教員に求められるもの
- テーマは何であれ、グループワーク、ディスカッションがあるといいと思います
- ・ 研究指導の方法と自身の Update